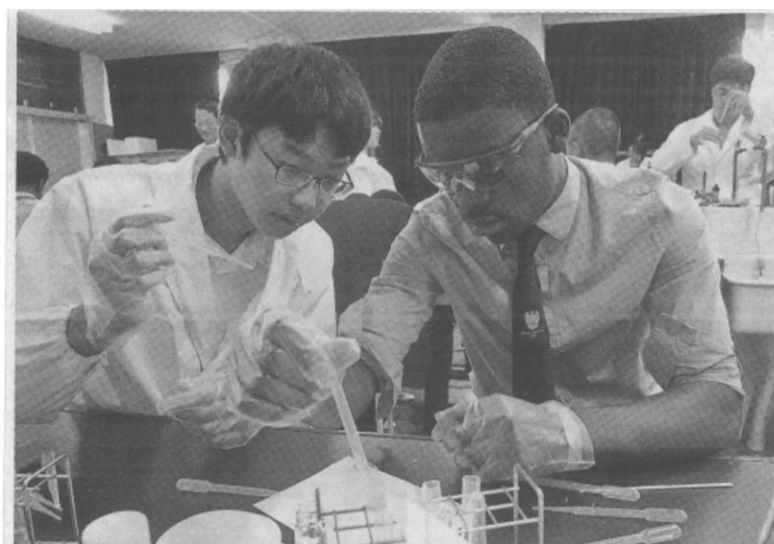




1年環境科学科 国際科学交流（DGSとの交流）

10月17日（木）、本校英国姉妹校のダートフォードグラマースクール（DGS）の生徒29名と教員の方が来校しました。この日は主に1年生環境科学科と交流を行いました（SSHニュース第20号を参照）。午後から行った**共同実験講座**について、10月19日（土）わかやま新報に掲載されました！



一緒に実験する生徒たち

授業は2クラスに分かれて行われ、和歌山大学システム工学部システム工学科の大須賀秀次准教授が、最新の大型テレビやスマートフォンなどに採用されている有機EL素子の発光材料について説明。生徒たちは有機機

和歌山

イギリスのダートフォードグラマースクールで日本語を学ぶ29人は17日、姉妹校の一つである和歌山太田の県立向陽高校（松本泰幸校長）を訪問。生徒らと一緒に学び、交流を深めた。

イギリスの生徒が向陽で学ぶ

科学でコミュニケーション

グラマースクールは中等教育機関で、11歳から18歳までの生徒が通う大学進学を前提とした学校。この日は、文部科学省から4期目となる「SSH（スーパーサイエンスハイスクール）研究開発学校」の指定を受け、科学分野を中心にさまざまな取り組みをしている向陽高校で、環境科学科の1年生79人と共に、大学の研究者から科学を学んだ。

光色の観察をした。近畿大学生理工学部遺伝子工学科の齋藤貴宗准教授の授業では、生命科学の研究によく使われる体長1ミリの線虫を、顕微鏡を使って解剖。遺伝の本体である減数分裂について学んだ。

「普通英語と違い、サイエンス英語は難しいが、イギリスの生徒と一緒に学

寿し・活魚一品料理

西郷亭

和歌山市北新4-3
電話(073)428-2691

ぶことで、科学コミュニケーション能力を高める機会になったと話していた。この日は「科学でおもてなし」と題した交流会も開かれ、生徒らは人エイクラを使ったすし、和紙やスライムづくりなど、科学的な内容を絡めて日本の文化を紹介した。

以下、共同実験講座についての生徒の感想です。

「TAの方による実験内容の説明を、簡単な英語で伝えるのになかなか苦戦しました。普段単語帳などで学んでいる英語がいざという時に出てこなかったのが、日常生活の中で出来るだけ英語を使っていきたいと思いました。」「自然と伝えたいことを英語にして発する練習になった。流暢でなくても、ジェスチャーなどを用いてニュアンスが伝わればある程度のコミュニケーションになると実感した。」